



DNSサーバメンテナンスあれやこれや

Infoblox K.K.
K. Fujikawa

■ **DKAでインターネット終了？**

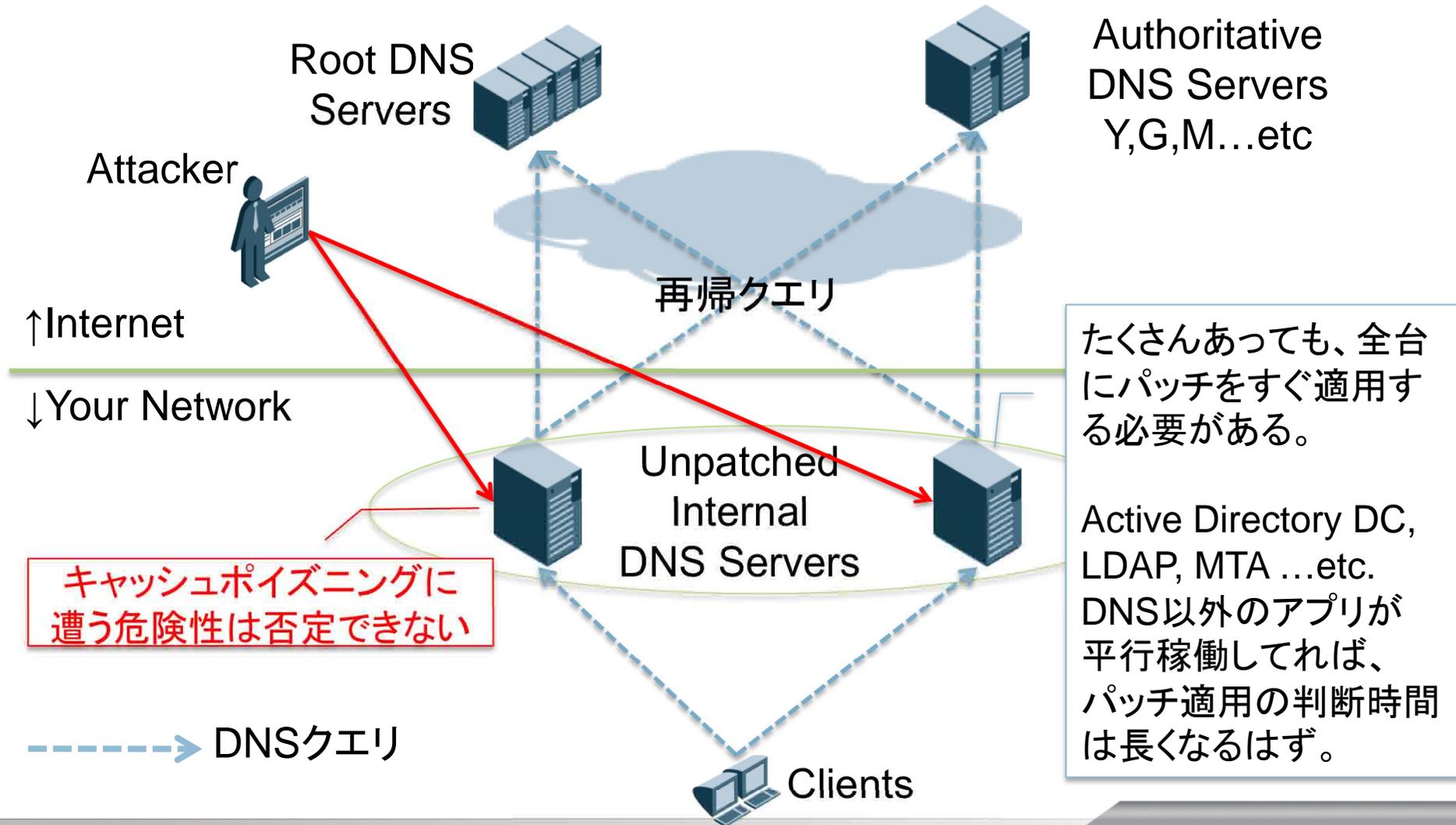
- まだだ、まだ終わらんよ
 - 終わられたら(いろんな意味で)困る。

■ **結局、どうすりゃいいのだ？何かできることはないのか？**

- 安全なDNSサーバやら、IDS/IPSとかDNSに関するアプリケーションFirewallを見つけてくる
 - 予算の問題があったり、製品そのものを探すのが面倒だったり
- DNS応答の複数回チェックとか、DNSSECとか、実装を見直す
 - 時間がかかりそう...その時間さえ惜しい。
- ひたすらパッチを適用する
 - 今回のお話は、これを中心に。

■ **ポイント**

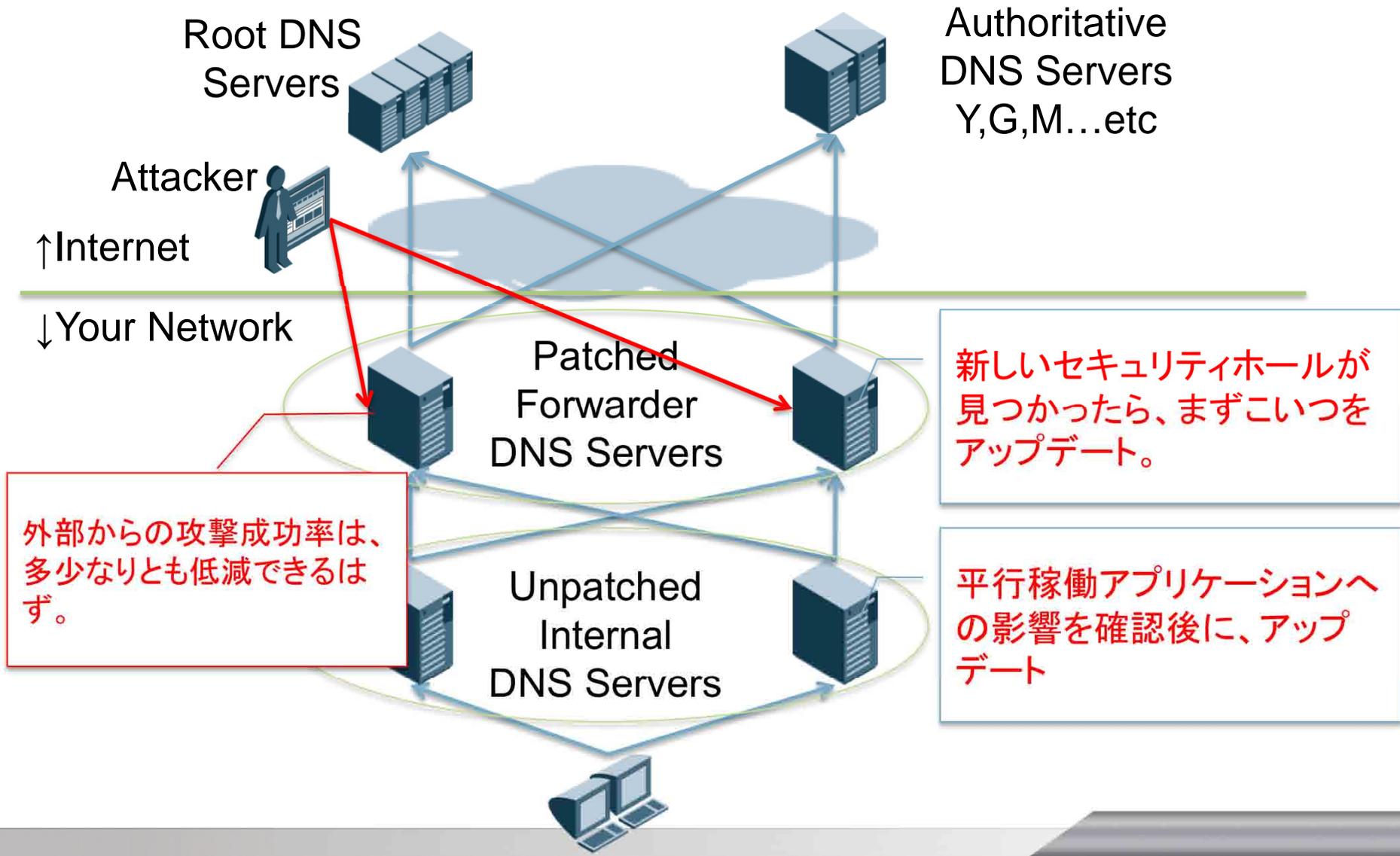
- パッチ適用作業をいかにシンプルにするか
- パッチ適用作業中のサービス停止をいかに短くするか

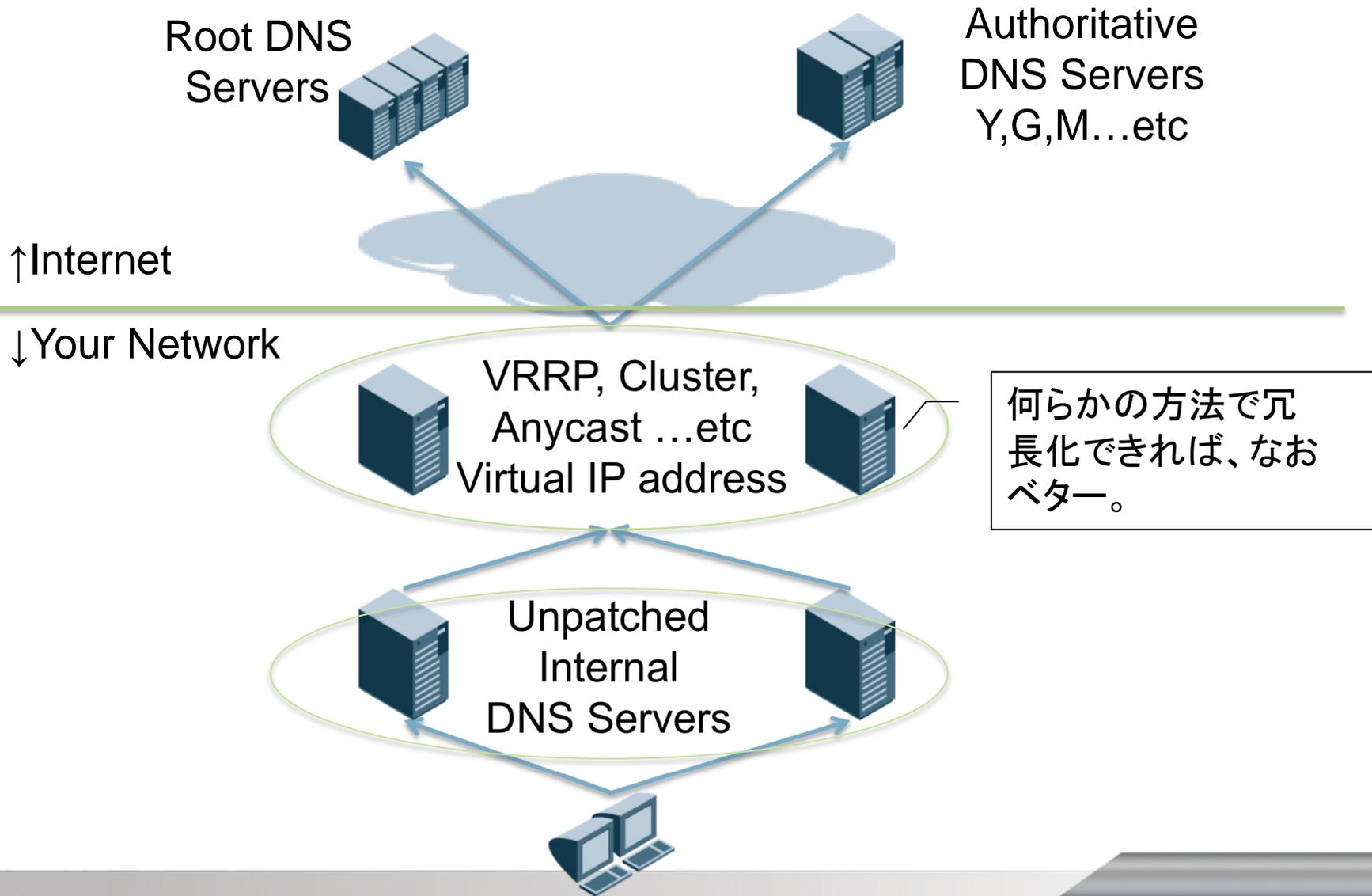


- **パッチ適用すべきかどうかの判断時間**
 - 自分の環境で対応が必要なのか？
 - 必要だとしたら、どのタイミングでやる？
- **他のアプリケーションへの影響調査ドキュメントの確認時間**
 - 人的な二次被害を防ぐためには、必要な時間
- **パッチ適用環境の動作確認に必要な時間**
 - パフォーマンスに影響はない？とか

- **トータルで、3日～2週間!?**
 - もう少し、できればもっと、短くしたい。

After





- **最新パッチを適用しやすい、DNSサービス専用のホストを用意するだけで、全然違う。**
 - 意外とDNSサービスと他のアプリケーションを併用している環境は多かったりする...
 - DHCPとか、MTAとか、ドメインコントローラとか。
 - ハードウェアが高性能かつ廉価になった弊害なのかな、と思ったり。
 - 将来的にそれなりのパフォーマンスを求められる可能性があるなら、それまでにさっさとサービス分離して用意しておきたい、という気持ちもある。

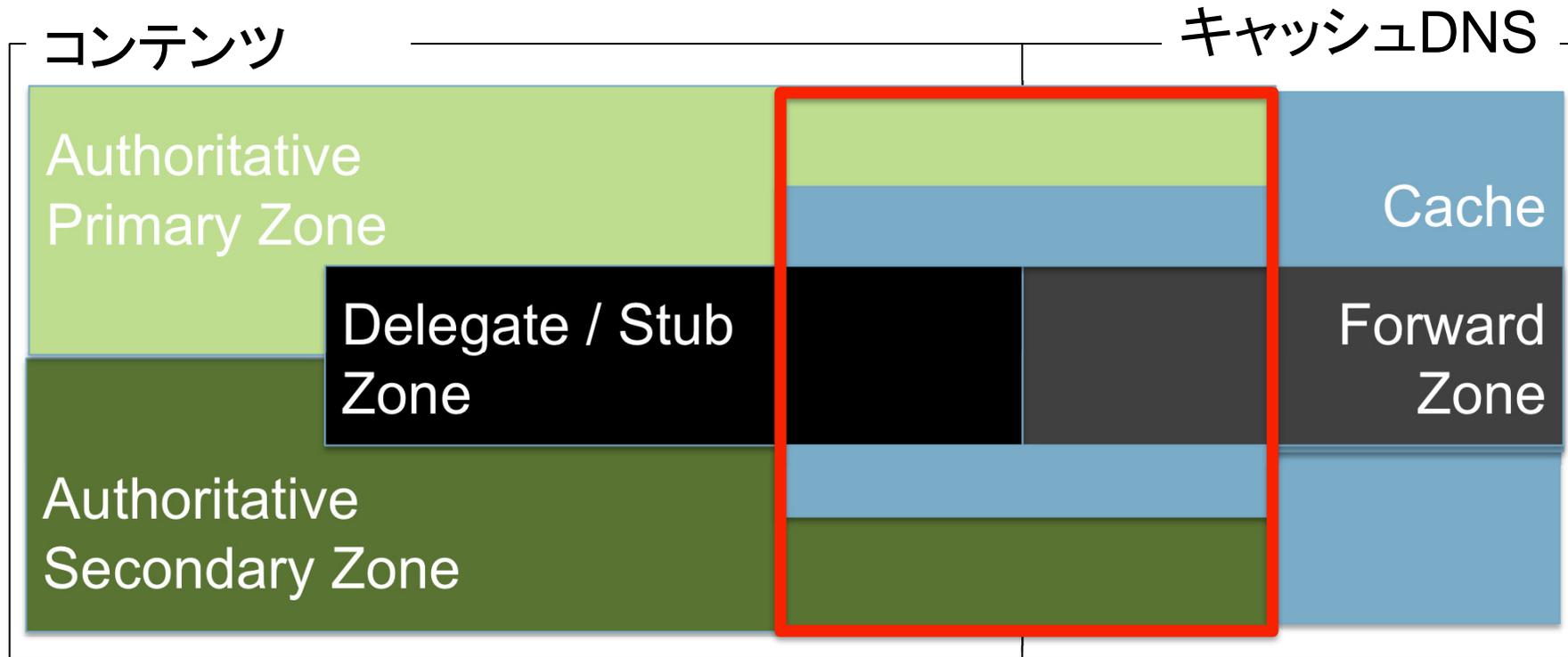
- **これを機に、コンテンツDNSサーバとキャッシュDNSサーバの分離が促進されると、みんな幸せになれそうな気がする。**
 - Viewで分離させても、オペミスでOpen Resolverになる可能性は否定できない...

■ Merits

- メンテナンス性の確保
 - 内部用DNSサーバが他のアプリケーションを兼ねている環境であれば、トータルのメンテナンス性は向上するはず。
- セキュリティ確保
 - キャッシュ専用DNSホストのサービスを常に最新に保てば、外部からの攻撃にはある程度耐えられる。

■ Demerits

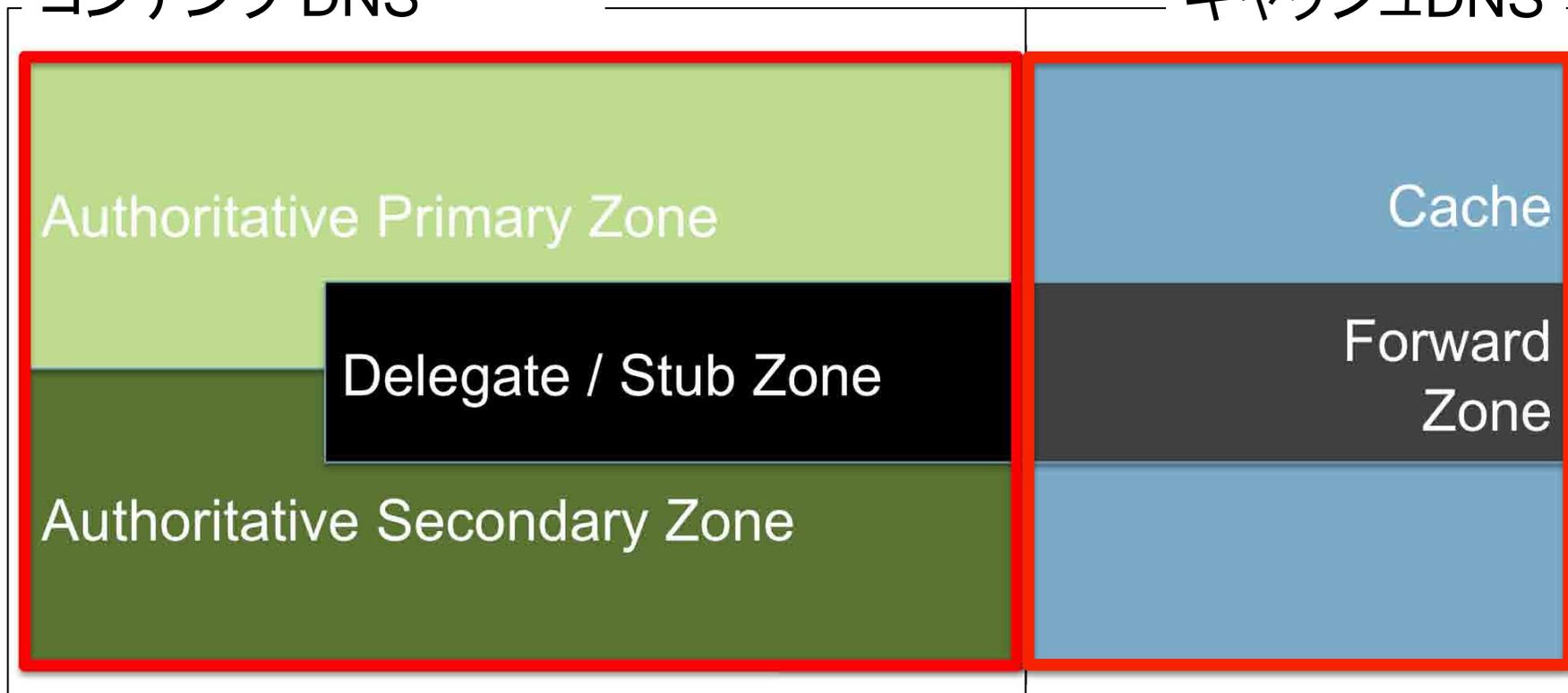
- 内部用DNSがたくさんあると、最初のForwarders設定は大変
 - 一度変えてしまえば、後々楽になれるんですけど...
- サーバ台数は増加する
 - ラックの温度や電源容量は大丈夫ですか？
- クエリ処理にかかるレイテンシが大きくなる
 - キャッシュができてしまえば問題ないはず。
 - 一般的な企業環境であれば、問題にならないはず。



赤枠のように、1DNSサーバに異なる役割やゾーンが存在すると、メンテナンス性の悪さが目立つようになり、結果的に危険な状態になりかねない。

コンテンツ DNS

キャッシュDNS



明確に機能を分けた設計になっていれば、かなりマトモなDNS環境になる。

- **アプライアンスなので、メンテナンス性は飛躍的に向上しています。**
 - 筐体二重化とか、複数デバイスの統合管理とか
- **詐称DNS応答の検知/通知/mitigate機能を実装**
 - SNMP Trap/E-mailで通知します

- **However : 日本市場での特異点**
 - DHCPサーバとしての利用が圧倒的大多数
 - US/ヨーロッパでは、DNSサーバとしての利用が圧倒的
 - この逆転現象はいつたい...なぜ?(`ρ`)

Thank you

ご質問等は、お気軽にどうぞ。